

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4190700031		
法人名	有限会社 さわやか 門前		
事業所名	グループホーム 浜		
所在地	佐賀県鹿島市浜町乙2591-1		
自己評価作成日	令和3年3月9日	評価結果市町村受理日	令和3年10月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	令和3年4月9日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者9名の内、7名が車椅子での介助が必要になられ、一人ひとりのお気持ち、体調に合わせて体調に合わせて、無理がない様に支援している。</li> <li>・キャリア段位制度を利用し、入居者にとってよりよい介護が出来る様に、職員のスキルアップを目指している。</li> <li>・リフトを入浴時と、ベッドへの移乗時にそれぞれ利用し、入居者の拘縮予防と、職員の介護負担軽減に努めている。</li> </ul>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>市内の伝統のある酒造地区の、静かな景観の中にあるホームである。入居者・職員とも安全で無理のない介護を実施するために移乗時のリフトを活用されている。キャリアアップ段位制度を利用し、職員のスキルアップをして、より良いケアができるように実践されている。地域に向けてスピーカーがあり、災害時には地域の方との協力体制が作られている。地域の方に向けた認知症サポーター養成講座などホームより、行い、地域の役割を果たして、お互いに協力関係ができています。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し、ケアプランにもあげ、実践につなげている。	理念は、スタッフ室に掲示している。理念は共有しているが、言葉かけ等、場面によっては実践できていない所がある。	振り返りや会議の場を設け、全職員が理念を意識して実践ができるように期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月一回の溝掃除に参加し、両お隣さんと達と、顔が合うと、世間話や、畑の事など話している。	地域の溝掃除に参加している。地域の方や家族より野菜の差し入れがあり、散歩に出かけると近隣の方とあいさつや世間話をして交流ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は、認知症サポーター養成講座をそれぞれの地区の公民館で開催していたが、コロナ過で、現在は中止している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議もコロナ過で集まることが出来ず、GHでの様子や、出来事などを二か月に一回書面で、会議の皆さんに配っている。	2ヶ月に1回、対面もしくは書面での開催ができています。対面で開催できないときは書面にてホームの状況や情報伝達を行っている。	書面開催時には、意見の聴取方法について工夫を行い、サービスの向上に活かせるように期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の方のケアプランを持参したり、病院受診の前に連絡をし、スムーズに行くようにしている。	市主催の行事に参加している。地域包括支援センターとの関係を築くよう、日頃から相談やホームの情報提供など行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束となる具体的な行為を職員は研修で学び、理解しているが、やむを得ず、転倒、転落の可能性が高い利用者のご家族に説明をし、了解を得てサインをもらい、ベッド柵をしている。3~4か月に一回、ベッド柵を外すことが出来るかの話し合いをしている。	身体拘束についての説明を行い、同意書・記録が残されている。身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1回実施しているが実施の記録がない。	身体拘束適正化委員会を実施されているが、議事録や、身体拘束をしないケアの推進に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法の研修を受けたり、虐待が見過ごされる事がない様に注意を払い、防止に努めている。夜勤は一人なので、記録をしてもらい、信用が一番だと常日頃思い接している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用しておられる方が二名おられ、それぞれの方と、ご家族同様に話し合いながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明が出来ているかどうか分からないが、ケアプランを説明する時や、受診時などに話しやすい雰囲気を作り、理解していただけるように話している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	以前は、運営推進会に家族代表に参加してもらい、いろんな話が出ていたが、現在はなく、利用者のご家族さんから、今までは、自分の車で受診をしてもらっていたが、重度になられ車いすごと乗れる会社の車を利用してもらっている。	介護度が重い入居者の病院受診は家族の車では難しく、家族や運営推進会議の意向を取り入れて、福祉車両のレンタルも対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特別に職員からの聴く機会は、設けていないが、職員からの話しを聞き、反映させている。 (例 勤務表作り、入居者それぞれの衣類、寝具の整理、嚥下状態があまり良くない為ミキサーにや刻みで等、庭の花植えなど・・・)	月に1回のミーティング会議を行い職員の意見を聞いている。また、個別で意見を聴く機会も設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めているつもりだが、十分に伝わっているかどうか分からない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画はあるが、夜勤をする人が減り、時間が取れず、現在は難しくなった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH交流会に参加し、勉強会や他GHの方の意見を聞き、参考にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生活環境等を元に、要望を聞き、初めてのところに来られ何もかもが不安で一杯だと思うので、まずは信頼関係を築いていき、不安を少しずつ取り除いていくよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていること等、話を聴き、不安が安心になられるように、信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員間での話し合いをしながら、「その時の必要」な支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることを職員と共に話し合いながら、希望が実現出来る様に支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでもお互い連絡が出来る様に、要望があった時は、電話やメールでも話が出来よう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会ったときなど近況報告したり、またドライブした時、思い出の場所などに寄ったりと関係継続に努めている。	神社などへドライブに出かけている。電話を掛けたり、知人の方より、年賀状が届くなど関係が途切れない支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションの時間には、出来るだけ集まってもらい、顔を合わせるようにして関係性を保っている。利用者同士の関係性を把握しながら、時にはテーブルの位置を変更したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も、病院などへ面会に行ったり、(現在は、コロナで面会が出来ない)ご家族と会った時は、その後の様子を伺ったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話により、何を一番望んでおられるのかの把握に努めている。認知症が進行され、意味がよく分からなくても、何とかこちらが解るように努力しながら、ゆっくり話を聴くようにしている。	入浴時や食事時間のゆっくりした時間に、日常会話の中で本人の意向を把握するよう努めている。困難な方については、仕草や表情を見て、本人の気持ちに寄り添うよう、職員で話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に情報を収集し、家族にこれまでの生活歴や暮らしぶり、病歴、性格などを聞いて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居日数が増えてくるにつれ、新たな発見があり、それも含め現状の把握に努め、出来る事を職員とともにやっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ミーティングを行い参加し、意見を出し合っ、本人と深くかかわりあえるように現状に合わせ、利用者が言われた言葉や行動を受け止め、今後の支援の在り方などを話し合っている。	毎月のミーティングの中で介護計画のモニタリングを行っている。6ヶ月に1度、認定変更時、状態が変化した時に、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り時等、詳しく伝え、排尿、排便チェックなど個別に記録し、日中の途切れない介護に生かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	傾聴などを行い、好きなことや、昔の事等(思い出話)を引き出し、一人ひとりに対しての支援が出来る様に努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	親しい友人などの面会を勧めたりしていたが、現在はコロナ過で面会も思うように出来ず、ホーム内で楽しく生活されるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれの今までのかかりつけ医に、出来るだけ家族での受診をお願いし、無理な場合はホームから受診に付き添い、前日までのバイタル等の記録を持参し、その日の受診付き添い表に受診状況を記録し、家族へも良く伝えるようにしている。	入居前のかかりつけ医に、家族に協力を得て、受診を行っている。日常の身体状況や食事量など受診付き添い表を家族に渡し、スムーズな受診支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の様子と違い、異常だと思われる時は、管理者、訪問看護師に連絡し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は、訪問看護師や管理者が、病院関係者ソーシャルワーカーと連絡しながら職員も共に支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りについて契約時からGHで現在出来ることを話し合い、GHの作成資料に基づき、ミーティング時などで話し合いをしている。	看取りの指針があり、体制はできているが、対象者はいない。契約時に説明はしているが、重度化した際や終末期に必要なケアについて話し合いを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの講習会や訓練をGH交流会でも実施し参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や水害時の災害想定訓練をし、非常食の試食なども実施した。令和2年7月6日の大雨警報の時、ピオの3階かたらいへ全員で避難し、一夜泊まった。	年2回の火災避難訓練を実施している。令和2年3月の大雨時に実際に避難を行った。災害時は、ホームより地域に向けてのサイレンにて、地域の方に協力を呼び掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレへの言葉かけなど、小さい声で言ったり、プライバシーを損ねないような支援を心がけている。	トイレや入浴時は肌の露出などに配慮している。個別の記録は、タブレットにて管理し個人情報の保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく言葉かけを行い、その方に合わせて行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	現在重度の方が多く、夜間の状況などを踏まえ、無理のない様に休んでもらったり、元気な方は、出来る事を共にしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に必ず髪をとかし、顔拭き等自分で出来る方はしてもらい、お元気な方の定期受診時など自分で気に入ったお洒落な服を選んで来て行かれる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嚥下が難しい方はミキサー食をし、味つけを損ねないようにしている。元気な利用者には、後片づけを職員と共にしている。	同法人の厨房と業者を利用して配達してもらい、ホームで配膳している。今後は地元の食堂より宅配を予定している。テーブル拭き、食器拭きなどできる入居者と一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方が食べられるような刻みやミキサー食、おかゆにしている。水分は、一人ひとりその時の水分摂取量を記録し、水分が少ない方には、水分の大切さを勧め、ゼリーや好きな飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る限り、食後口腔ケアしてもらい、自力で出来ない方は、ブラシやスポンジで一人ひとり介助し、夜間、義歯はポリドントにつけ、清潔に保てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時でのトイレへの言葉かけを行ったり、トイレへスムーズに自分から行かれるような言葉かけをしたり、オムツの方も定期的に清拭し交換している。	排泄のパターンを把握して、トイレの誘導を声掛けしている。座位が可能であればトイレでの排泄を促し自立に向けて支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表にて排便の確認を行い、便秘時にはそれぞれに医師からの指示どりの下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴チェック表に記入し、数日入浴されてなかったり、受診前日には、入浴の言葉かけをしている。体調などで無理強いせず次の方に勧めている。	週に2から3回程度、入浴支援を行っている。入浴を希望されないときは、タイミングを図り時間をずらしたり、無理はせずに入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調、状況を見て、昼寝や夜間安心して気持ちよく休まれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	体調、行動の変化、排便、皮膚状態、食事摂取量、食べ方等、変化がある時は、訪問看護師に連絡し、		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせた支援を行っている。車椅子での介助の方が7名おられ、コロナ過で外出も面会も出来ない状態で、日々の生活がマンネリ化してきているように思われる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歯科や髪をカットに美容院へ行きたいと希望されれば、希望にこたえていたが、現在はピクニックも出来ず、ドライブに短時間、少人数で出かけているが、回数が減った。	月に1回の外出レクリエーションの計画作成しているがコロナ禍の為、ドライブや外出は短時間に行っている。希望があれば家族の方と協力し、戸外に出かけられるよう支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時の契約の時から、居室にはお金など貴重品は、置かないようにお願いし、本人がどうしても財布を今までと同じように持っていたといわれる方に限って少量もたれ、管理されるようにご家族にお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望されたり、このコロナ過で電話でも自由に話される事が大事だと思い勧めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある置物や花を飾っている。食堂から見える様に外のプランターに花を、入居者と共に植えてもらい楽しんでおられる。	ホーム内には、入居者の作品を額に入れたり掛け軸にしたりと落ち着いた空間となっている。窓から見えるところにプランターが配置され、季節を感じる事が出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方が近くで、その反対の方は柱で隠れたり等工夫し、時々、テーブルの配置を変えている。職員が間に入りコミュニケーションがスムーズにいくように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時から、自分の部屋にしてもらえるように、なじみの物を持って来てもらうようお願いしている。	各居室には十分な収納スペースがあり、部屋を広く使うことができている。家族と本人が居心地よく過ごせる家具や備品を持ち込むことができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることを職員と共に、楽しく話しながらしていき、一人ひとりの思いや行動を大事にしていく事を心がけている。		